

定期作況報告

(第 5 号 令和8年9月20日現在)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

令和 8 年 8 月下旬から 9 月中旬までの平年との比較による気象は次のとおりである（表 1）。

- 8 月下旬：最高気温は平年並み、最低気温は低く、平均気温はやや低かった。降水量は多く（平年比 156％）、日照時間は多かった（平年比 144％）。
- 9 月上旬：最高気温は極めて低く、最低気温は極めて低く、平均気温は極めて低かった。降水量は多く（平年比 147％）、日照時間はやや少ない（平年比 69％）。
- 9 月中旬：最高気温は高く、最低気温はやや低く、平均気温は平年並みだった。降水量は極めて少なく（平年比 11％）、日照時間は多かった（平年比 147％）。

表 1. 気象表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	19.2	20.4	-1.2	26.4	26.0	0.4	14.0	15.8	-1.8
9月 月上旬	16.3	19.3	-3.0	22.8	25.6	-2.8	10.7	13.7	-3.0
9月 中旬	16.3	15.8	0.5	24.1	22.2	1.9	9.6	10.3	-0.7
平均値	17.3	18.5	-1.2	24.4	24.6	-0.2	11.4	13.3	-1.8

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	89.5	57.5	32.0	74.4	51.5	22.9
9月 月上旬	36.0	24.5	11.5	42.6	62.0	-19.4
9月 中旬	6.0	55.0	-49.0	71.7	48.9	22.8
平均値	43.8	45.7	-1.8	62.9	54.1	8.8

2. 作 況

1) 水稻 やや良

5月20日現在：平年並

事由： 播種は平年より1日遅い4月17日に行った。出芽の揃いは良好であった。

移植は平年より1日早い5月19日に行った。移植時の草丈は平年並からやや短く、第1葉鞘高は平年並であった。葉数および茎数は平年並であった。苗100本当たりの地上部乾物重は、平年並からやや重かった。苗の充実度を示す地上部乾物重/草丈は、概ね平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：やや良

事由： 5月下旬から6月中旬の気温はやや高く、日照時間はやや多かった。幼穂形成期は、平年より3日早かった。草丈および葉数は平年並で、茎数は平年より6～22%多かった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

7月20日現在：平年並

事由： 6月下旬から7月中旬の気温および日照時間は概ね平年並であった。止葉期は平年より2日、出穂期は3日早かった。草丈、茎数および葉数は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：平年並

事由： 7月下旬から8月中旬までの気温は平年並で、日照時間はやや多かった。稈長は平年並からやや長く、穂長は平年並で、穂数は平年並からやや多かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：やや良

事由： 8月下旬の平均気温はやや低く、登熟期間の平均気温は平年並で日照時間はやや多かった。成熟期は平年より1日早く、登熟日数は平年より2日長かった。一穂粒数および稈実歩合は平年並であった。m²当たり稈実粒数は平年の102～104%で、登熟歩合は平年に比べて-0.3～+1.3ポイントであった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

表 2. 9月20日の水稻の生育

品種名			ななつぼし			ゆめぴりか		
項 目 / 年 次			本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月.日)		4.17	4.16	1	4.17	4.16	1
	移植期 (月.日)		5.19	5.20	△ 1	5.19	5.20	△ 1
	幼穂形成期 (月.日)		6.18	6.21	△ 3	6.19	6.22	△ 3
	止葉期 (月.日)		7.06	7.08	△ 2	7.06	7.08	△ 2
	出穂期 (月.日)		7.14	7.17	△ 3	7.14	7.17	△ 3
	成熟期 (月.日)		8.30	8.31	△ 1	8.30	8.31	△ 1
	穂揃日数 (日)		8	7	1	7	7	0
	登熟日数 (日)		47	45	2	47	45	2
	生育日数 (日)		135	137	△ 2	135	137	△ 2
移植時	草丈 (cm)		13.8	14.2	▲ 0.4	12.3	14.2	▲ 1.9
	葉数 (枚)		4.2	4.1	0.1	4.4	4.3	0.1
	茎数 (本/m ²)		146	145	1	149	156	▲ 7
	第1葉鞘高 (cm)		2.6	2.5	0.1	2.3	2.4	▲ 0.1
	地上部乾物重 (g/100本)		4.96	4.49	0.47	4.38	4.60	▲ 0.22
	地上部乾物重/草丈		0.36	0.32	0.04	0.36	0.32	0.04
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.3	8.2	0.1	8.6	8.5	0.1
		7月20日	9.9	10.2	▲ 0.3	10.2	10.5	▲ 0.3
		止葉葉数	9.9	10.2	▲ 0.3	10.2	10.5	▲ 0.3
	茎数 (本/m ²)	6月20日	683	558	125	658	623	35
		7月20日	736	724	12	782	815	▲ 33
	草丈 (cm)	6月20日	43.9	42.6	1.3	41.0	39.5	1.5
		7月20日	92.7	88.7	4.0	89.6	87.1	2.5
成熟期	稈長 (cm)		74.9	71.1	3.8	69.9	67.2	2.7
	穂長 (cm)		16.6	17.1	▲ 0.5	16.9	17.1	▲ 0.3
	穂数 (本/m ²)		732	673	59.4	765	764	1.3
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		47.0	48.9	▲ 1.9	43.2	42.1	1.1
	m ² 当たり粒数 (×100)		344	328	16	331	321	10
	稔実歩合 (%)		96.0	96.2	▲ 0.2	93.7	94.4	▲ 0.7
	m ² 当たり稔実粒数 (×100)		330	316	14	310	303	7
	同上比 (%)		104	100	4	102	100	2
	登熟歩合 (%)		90.5	89.2	1.3	84.5	84.8	▲ 0.3
	籾摺歩合 (%)			82.3			79.1	
	屑米歩合 (%)			1.8			4.3	
	精玄米千粒重 (g)			22.8			23.1	
収量	藁重 (kg/a)			66.9			63.7	
	精粒重 (kg/a)			82.9			78.8	
	精玄米重 (kg/a)			68.2			62.4	
	屑米重 (kg/a)			1.3			2.8	
	収量平年比 (%)			100			100	
	検査等級 (等)			1下	-		2上	-

注1) 平年値は前7か年中、令和元年（最凶年）、令和6年（最豊年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

3) 育苗耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥：くみあい軽良培土床土用を約1.08 (kg/箱) 充填、
成分量 N 0.5、P₂O₅ 0.7、K₂O 0.5、MgO 0.1 (g/箱)、
置床 N 25.0、P₂O₅ 0.0、K₂O 2.5 (g/m²)

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：N 8.0、P₂O₅ 9.7、K₂O 6.9 (kg/10a)、堆肥 0 (kg/10a)

5) 精玄米千粒重および精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算。

2) 春まき小麦 良

5月20日現在：やや不良

事由： 播種は平年より2日早い4月17日に行った。出芽期も平年より3日早かった。5月上旬以降の気温は平年並みだったが、降雪があるなど気温がかなり低い日もあり、また、5月中旬の降水量が少なかったことなどから、草丈はやや低く、茎数は平年より少なかった。これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

6月20日現在：やや不良

事由： 前報以降の生育は順調に進み、出穂期は平年より1日早い6月16日だった。草丈は平年並みであるが、5月の生育の遅れを反映して茎数は平年より少なかった。これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：平年並

事由： 稈長は平年より長く、穂長は平年並であった。穂数は平年よりやや多かった。これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや良

事由： 出穂期は平年より1日早く、成熟期は平年並で、登熟期間は平年より1日長かった。穂数は平年よりやや多く、穂長は平年並であった。子実重は平年比111%であった。これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

9月20日現在：良

事由： 前報のとおり子実重は平年比111%と多収であり、容積重はやや優り、千粒重は重く、蛋白質含有率は平年を下回った。これらのことから、目下の作況は「良」である。

表 3 . 9月20日の春まき小麦の生育

品 種 名		春よ恋		
項 目 / 年 次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		4.17	4.19	△ 2
出芽期 (月.日)		4.30	5.03	△ 3
出穂期 (月.日)		6.16	6.17	△ 1
成熟期 (月.日)		7.25	7.25	0
草丈 (cm)	5月20日	20.1	21.9	▲ 1.8
	6月20日	78.9	81.9	▲ 3.0
茎数 (本/m ²)	5月20日	515	594	▲ 79
	6月20日	511	709	▲ 198
成熟期	稈長 (cm)	102	91	11
	穂長 (cm)	7.8	8.2	▲ 0.4
	穂数 (本/m ²)	548	510	38
子実重 (kg/10a)		516	466	50
同上平年比 (%)		111	100	11
容積重 (g/L)		837	825	12
千粒重 (g)		40.4	38.8	1.6
蛋白質含有率 (%)		10.3	11.1	▲ 0.8
検査等級 (等)			1	—

注1) 平年値は前7か年中、令和6年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

4) 大豆 平年並

5月20日現在：

事由： 播種は平年並の5月18日に行った。

6月20日現在：平年並

事由： 出芽期は平年より3日早い5月28日であった。主茎長は平年並で、主茎節数は平年よりやや少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由： 開花期は平年並。平均気温が6月下旬を除きやや高い傾向で経過したことから、主茎長は長く、主茎節数はやや少ないが、分枝数は多かった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：平年並

事由： 7月下旬から8月上旬に平均気温が低く推移したことから、前報以降、生育が緩慢となった。主茎長はやや長く、主茎節数、分枝数および着莢数は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：平年並

事由： 8月下旬から9月上旬にかけて降水量が多く推移し、倒伏が見られた。主茎長、分枝数は平年を上回り、主茎節数、着莢数は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

表4. 9月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.18	5.18	0
出芽期 (月.日)		5.28	5.31	△ 3
開花期 (月.日)		7.08	7.08	0
成熟期 (月.日)			9.13	
主茎長 (cm)	6月20日	14.7	15.1	▲ 0.4
	7月20日	68.5	60.5	8.0
	8月20日	67.2	62.1	5.1
	9月20日	69.1	61.4	7.7
	成熟期		61.4	
主茎節数 (節)	6月20日	3.7	4.0	▲ 0.3
	7月20日	9.2	10.0	▲ 0.8
	8月20日	10.4	10.3	0.1
	9月20日	10.1	10.2	▲ 0.1
	成熟期		10.2	
分枝数 (本/株)	7月20日	7.2	6.4	0.8
	8月20日	6.8	6.3	0.5
	9月20日	9.9	6.0	3.9
	成熟期		6.0	
着莢数 (個/株)	8月20日	88	87	1
	9月20日	90	88	1
	成熟期		88	
子実重 (kg/10a)			424	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			33.5	
屑粒率 (%)			1.5	
検査等級 (等)			2中	

注1) 平年値は前7か年中、令和6年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”を示す。

5) 小豆 やや良

6月20日現在：平年並

事由： 播種は、平年より1日早い5月22日に行った。出芽期は平年より4日早かったが、主茎長は平年よりやや短く、本葉数は平年を下回った。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由： 7月上旬以降気温が高い傾向で推移したことから生育が順調に進み、主茎長は長く、本葉数は平年より多かったが、分枝数は少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや良

事由： 開花期は平年より1日遅かった。7月下旬から8月上旬は気温が低く経過したものの8月中旬は気温が高く、日照時間は8月上旬以降多く推移したことから、地上部生育が旺盛となり、主茎長は平年より長く、本葉数は平年より多く、倒伏が目立った。着莢数は平年を大きく上回った。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

9月20日現在：やや良

事由： 成熟期は平年並。主茎長は平年よりかなり長く、主茎節数、着莢数も多かった。分枝数は平年並だった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

表5. 9月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモ167		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.22	5.23	△ 1
出芽期 (月.日)		6.03	6.07	△ 4
開花期 (月.日)		7.23	7.22	1
成熟期 (月.日)		9.05	9.05	0
主茎長 (cm)	6月20日	5.2	5.6	▲ 0.4
	7月20日	32.2	28.7	3.5
	8月20日	86.9	70.8	16.1
	成熟期	98.6	76.0	22.6
本葉数 (枚)	6月20日	1.0	1.3	▲ 0.3
	7月20日	9.7	8.8	0.9
	8月20日	14.8	13.6	1.2
主茎節数 (節)	成熟期	15.7	13.8	1.9
分枝数 (本/株)	7月20日	5.3	6.2	▲ 0.9
	8月20日	6.5	6.6	▲ 0.1
	成熟期	6.0	6.1	▲ 0.1
着莢数 (個/株)	8月20日	79	62	17
	成熟期	58	53	5
子実重 (kg/10a)			319	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			13.0	
屑粒率 (%)			3.2	
検査等級 (等)			3上	-

注1) 平年値は前7か年中、令和4年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

6) ばれいしょ やや不良

5月20日現在：

事由： 植付けは平年より3日早い5月7日に行った。

6月20日現在：平年並

事由： 植付けは平年より3日早い5月7日に行った。植付け後、気温が高い傾向で推移したことから、生育は順調に進み、萌芽期は平年より2日早かった。6月上旬の後半で低温の期間があったことから茎長は平年よりやや短かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由： 開花始は平年並。茎長は平年より短かった。7月中旬の最低気温が高かったことや日照時間が少なかったことなどから、でん粉価は平年をやや下回った。上いもの平均重はやや下回ったが、上いも数、上いも収量は平年を上回った。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：平年並

事由： 上いも数、上いもの平均重、上いも収量はいずれも平年並であった。でん粉価は、7月下旬から8月上旬が低温で推移したことで日照時間が多かったことにより、平年を上回った。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：やや不良

事由： 枯ちよう期は平年並。上いも数は平年並だったが、上いもの平均重は下回り、上いも収量、中以上いも収量、規格内いも収量はそれぞれ平年比90、86、97%であった。でん粉価は平年を2.1ポイント上回った。

これらのことから、作況は「やや不良」である。

表 6. 9月20日のばれいしょの生育

品 種 名		男爵薯		
項 目 / 年 次		本 年	平 年	比 較
植付期 (月. 日)		5. 07	5. 10	△ 3
萌芽期 (月. 日)		5. 25	5. 27	△ 2
開花始 (月. 日)		6. 21	6. 21	0
枯凋期 (月. 日)		8. 24	8. 24	0
茎長 (cm)	6月20日	28. 8	31. 6	▲ 2. 8
	7月20日	39. 1	46. 3	▲ 7. 2
上いも数 (個/株)	7月20日	9. 6	8. 9	0. 7
	8月20日	10. 1	10. 5	▲ 0. 4
上いもの 平均重 (g)	7月20日	66	68	▲ 2
	8月20日	93	93	▲ 0
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	2801	2650	151
	8月20日	4195	4320	▲ 125
でん粉価 (%)	7月20日	13. 2	14. 5	▲ 1. 3
	8月20日	15. 7	14. 2	1. 5
収 穫 期	上いも数 (個/株)	10. 8	10. 7	0. 1
	上いもの平均重 (g)	88	99	▲ 11
	上いも収量 (kg/10a)	4220	4673	▲ 452
	同上平年比 (%)	90	100	▲ 10
	中以上いも収量 (kg/10a)	3579	4165	▲ 586
	同上平年比 (%)	86	100	▲ 14
	規格内いも収量 (kg/10a)	3579	3680	▲ 100
	同上平年比 (%)	97	100	▲ 3
	でん粉価 (%)	16. 0	13. 9	2. 1

注1) 平年値は前7か年中、令和4年（最豊年）、令和2年（最凶年）を除く5か年の平均値。